

地球環境ユースサミット 2026 in KYOTO 募集要項

1. 主旨

2030 年における SDGs の各ゴールの達成や持続可能な社会の形成のためには、社会問題の構造を見抜き、解決策について対話・議論・吟味し、実行に移すことができる人材が求められています。そのため、地球環境問題等を自分事として捉え、SDGs につながる活動を牽引するリーダーの育成を目的とし、世界の中高生を対象とした「地球環境ユースサミット in KYOTO」を開講しています。本プログラムは原則英語で行い、専門家の講義を受講した上で、中高生の視点で課題を抽出し、問題解決に向けたアイデアを出し合い、実地研修を経て、実践に移していきます。本プログラムを通して、グローバル社会において自身が周囲と連携して成し遂げたいことを伝え共感を得る力や、実現するスキルを身に着けた人材の育成とネットワーキングを行います。未来のリーダー候補が、多様な社会問題について考えを深め、発信する力を身に付け、飛び立つことを目指しています。2025 年度は 47 名（海外学生 18 名、日本人学生 29 名）が参加しました。

参加学生は、3月末から 7 月にかけて月 2 回行われるオンライン講座に参加し、SDGs やリーダーシップについての理解を深めます。その際、講義に関連する事前学習に取り組んだ上で講義を聞き、幅広く SDGs に関連した話題について英語を中心としたディスカッションを行います。その後、講師やメンターからのアドバイスを受けながら、持続可能性に関するテーマをグループごとに設定した上で、そのテーマに潜む問題の解決に向けたアクション（提言）を考案し、8 月に京都府で行われる 2 泊 3 日の実地研修への参加を経て、考案したアクションプランを実践し、10 月のオンライン最終発表会で成果を発表することが求められます。

2. 概要・スケジュール

（1）テーマ：「2030 年の SDGs 達成に向けて自分たちは行動できているのか？SDGs の現状を探り、自分たちの日々の行動を見直してみよう」

次世代の SDGs を発信することまでを視野に入れて、地球全体の課題解決につながる行動変容への解像度を深めます。

（2）募集人数：国内外より高校生 50 名程度（各学校・各学年につき 2 名程度まで）

（応募者多数の場合、各学校で各学年 2 名までを選考したのち、応募してください。例：高校 1 年生 2 名・高校 2 年生 0 名・高校 3 年生、1 名 など）

(3) 内容：

＜オンライン講座＞

日時	内容
3月21日（土曜日） 16時30分から18時まで	・主催者浅利美鈴によるメッセージ ・グループ発表、自己紹介、メンター紹介 ・今後の流れ、各講座前の事前課題について
4月11日（土曜日） 16時30分から18時まで	SDGs① ・SDGsの概要、制定の背景 ・SDGsと言っても様々な捉え方があることを知る。
4月25日（土曜日） 16時30分から18時まで	SDGs② ・前回の講義を踏まえた上で、応募時に提出した事前課題についてディスカッション
5月16日（土曜日） 16時30分から18時まで	共創と対話① ・実践例を用いながら、今後のアクションプランを作る上でのアプローチの仕方を学ぶ。 ・課題解決のために様々な立場の人が関わって取り組むことの大切さを知る。
5月30日（土曜日） 16時30分から18時まで	共創と対話② ・民間企業や大学、NGO、自治体等による座談会（SDGsに取り組む上での苦労やこれまでの取組など）
6月13日（土曜日） 16時30分から18時まで	企業のトップによるメッセージ ・次世代の高校生に期待すること ・国際的なリーダー像 ・自分の関心から行動力へ移す実行力と推進力
6月27日（土曜日） 16時30分から18時まで	社会問題とあなたが思い描く未来 ・「今後あるべき将来の社会」「将来どんな地球にしていきたいか」をテーマに、重要だと考える社会問題についてディスカッション
7月11日（土曜日） 16時30分から18時まで	京都府のSDGsへの取組 ・ユースサミットを京都で実施することの意義
7月25日（土曜日） 16時30分から18時まで	実地研修準備

＜実地研修（予定）＞

日時：2026年8月21日（金曜日）正午から23日（日曜日）正午まで（2泊3日）

内容：フィールドワーク、地域の方々との交流、考案したアクションプランの発表、

アクションプラン実践方法の検討 等
場所：あうる京北（京都市右京区京北下中町鳥谷 2）
京都里山 SDGs ラボことす（京都市右京区京北周山町下寺田 11 元京北第一小内）
※初日の集合場所、最終日の解散場所は京都駅となる予定です。
<オンライン最終発表会>
日時：2026 年 10 月 3 日（土曜日）16 時 30 分から 18 時 30 分まで
内容：実践したアクションプランの成果発表、各賞の発表、修了証授与 等
※実地研修後、自身が周囲と連携して成し遂げたいことを伝え共感を得る力や、実現するスキルを身に着けるため、アクションプランの実践及び成果発表を行います。アクションプランを学校等で実践するにあたり、特段のご配慮をお願いいたします。

（4）経費

- ・オンライン講座の受講環境は、参加者自身で確保してください。
- ・実地研修期間中の宿泊費、食費、プログラム期間中の交通費は事務局が負担します（但し、現地までの交通費は除く）。
- ・実地研修初日は昼食を各自で済ませた上で正午に京都駅（予定）に集合してください。
- ・実地研修最終日は、昼食を済ませたあと、京都駅に移動し、解散となります。

3. 応募資格

2026 年度時点で高校生であること（意欲がある中学校 3 年生も可とします）。

4. 応募条件

- （1）英語による議論、ライティングができること（意欲があれば、英語のレベルは問いません）。SDGs 等、社会問題への関心を持っていること。グループワーク学習に積極的に参加できること。
- （2）応募時の事前課題に取り組み、応募書類と共に提出すること。
- （3）原則、全てのオンライン講座、実地研修、オンライン最終発表会に参加すること（事情があり、参加できない回がある場合は、事前にお知らせください）。

5. 応募方法

（1）提出書類

【学校応募】

- ・所定の応募フォーム (<https://kyoto-youthsummit.com/entry>) に必要事項を記入し、事前課題と共に提出してください。
- ・応募用紙の他、事前課題は、地球環境ユースサミットホームページ



(<https://kyoto-youthsummit.com/entry>) よりダウンロードできます。必要に応じて、応募フォーム記入前の下書きとして使用し、申込は必ず応募フォームに記入して送付してください。応募フォームからの申込が難しい場合には、例外的にメールでの応募を受け付けます。その際は、応募用紙と事前課題をダウンロードして、記入したものをメールに添付して info@kyoto-youthsummit.com まで送付してください。

【個人応募】学校応募が難しい場合、個人での応募も認めます。

- ・所定の応募フォーム (<https://kyoto-youthsummit.com/entry>) に必要事項を記入し、事前課題と共に提出してください。
- ・応募の際は、学校の先生や保護者の方の承諾を得て、応募フォームにて「本プログラムの受講について、同意を得ている」ことをご回答ください。

（2）提出締切日時：2026年3月7日（土曜日）23時59分まで

6. 参加者の決定

応募者は全員参加決定となります。提出締切後、事務局から初回のオンライン講座のご案内を各参加者に直接メールで連絡します。

7. 個人情報の取扱

提出書類に記載された情報は、厳重に管理の上、本プログラムの目的以外には使用しません。

【関連 URL】

地球環境ユースサミットホームページ <https://kyoto-youthsummit.com/>

過去の参加ユースの発表内容 <https://www.youtube.com/@sdgskyototimes6606>

【問合せ先】

京都超 SDGs コンソーシアム地球環境ユースサミット 2026 実行委員会事務局

<https://kyoto-youthsummit.com/contact>

info@kyoto-youthsummit.com

—参加学生の声— 大阪 YMCA インターナショナル・スクール卒業生
Shree Nidhy Suresh (インド)

私は、2024 年度のプログラムに参加しました。このプログラムは、新しい人々との出会いを通じて社会的スキルを磨き、サステナビリティへの関心を深める絶好の機会を提供してくれました。また、京都の宮津を訪れ、釣り体験や天橋立の見学、著名な方による講義を受講することができました。これらは普段では経験できない貴重な体験でした。

特に印象に残っているのは、京都大学を訪れて日本マクドナルド社のサステナビリティ部門の代表による特別講義に参加したことです。彼らのサステナビリティへの取組を学ぶのは非常に興味深く、京都大学のキャンパスツアーも、とても刺激的でした。

実地研修のハイライトの一つは、ビーチでプラスチックごみを集め、その後プラスチック検出器を使って種類をスキャン・分析したことです。特に、日本の海洋高校生たちと交流しながら行えたことがとても有意義で、彼らの専門知識や実践的な経験に触れられたのが印象的でした。その技術を実際に使うことができ、この活動はさらに忘れないものになりました。

この経験が私の高分子化学への興味を呼び起しました。プラスチックは最も一般的に使用される高分子の一つだからです。その結果、私は現在大学で材料化学の講義を受講しており、そこでプラスチックについて幅広く学んでいます。

もっと早くこのプログラムを知っていればよかったと思うほど、充実した経験でした。多くの刺激的な人々と出会い、今でも何人かとは連絡を取り合っています。サステナビリティに情熱を持つ人、新しいことに挑戦したい人には、お勧めしたいプログラムです。

—参加学生の声— 近畿大学附属豊岡高等学校 2 年 井川 祥来

私は 2025 年度に参加した地球環境ユースサミットで、世界中の同年代と出会い、環境問題や貧困といった社会課題について多角的に考える経験をしました。特に印象に残っているのは、消費者や企業、労働者など異なる立場を演じるロールプレイングです。一つの問題でも立場によって見え方が大きく異なることを実感しました。

参加前は、さまざまな問題を「正しいか、間違っているか」という単純な視点で捉えていました。しかし議論を重ねる中で、経済や社会の仕組みが複雑に絡み合って問題が生まれていることを学び、自分の考えを柔軟に見直せるようになりました。

このサミットは、答えを教えてもらう場ではなく、「考え方そのものが変わる場」でした。遠い国の問題だと思っていた課題が、自分の生活や選択とつながっていると気づけたことは、大きな成長だと感じています。社会課題に向き合う第一歩として、参加してよかったです。